

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点]（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	有限会社ふぁみりい
(ユニット名)	グループホームふぁみりい
所在地 (県・市町村名)	長崎県大村市
記入者名 (管理者)	吉田美保子
記入日	平成20年11月4日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時より「住 家 自 残 そ」5項目を理念として作り上げ、日々ノ生活ノ中で自然ト理念を基本とした支援をしている。	○	それぞれノ入居者ニその人らしく明るく楽しい毎日を笑顔で生活してもらっている。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	特に理念ノ共有トいう言葉は口にしなくても職員全員が自然と実践してくれている事により、当ホームノ「理念」が活かされている。	○	自然と日々のケアの中で理念を実践している。今後も向上して行きたい。記録等もその人の言葉で記載している。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホーム見学時 パンフレットにて理念ノ説明は行っている。入居者は日々ノ生活 憩いの場 廊下に理念を掲示し自然と視界に入っている。家族の方々も面会時等安定した生活を送る様子を見られ理解を得られていると思う。	○	今後も継続して行きたい。
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日々の死活の中で散歩や外気浴 買い物 地域の方々との気軽な挨拶が出来ている。愛犬ボコノ所も散歩中の方々が立ち寄って下さる。時には近隣の方々より野菜等を頂いている。	○	2ヶ月ノ回の運営会議にもメンバーとして、町内会長 民生委員さんにも入っていただき毎月ノ活動報告やホームに足を運んでくださる事により よりホームを理解してもらい協力して頂いている。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	当ホーム側から地域イベントノ参加は少ないがホームが開催している最大イベント 夏祭りには年々地域の方々ノ参加増加中。又、中高生ノボランティアノ受入も徐じよに増えつつある。	○	今後も地域住民との交流を深め地域住民としていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	人材育成の貢献として、中高生の実習生の受入を積極的に行い、グループホームの内容、生活を体験してもらっている。	○	グループホームとは?どんな所?どんな人がいるの?まだまだ世間で良く理解されていない面が多い。ホームにきてもらうだけで実際のホームでの生活を今後も見てもらいたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価にこだわる事なく 必要に応じては全体会議にて改善したり 日々の実践につなげるよう努力している。	○	職員全員が常に「心」から入居者に接してくれている。質の向上は勿論であるが「心」で接する支援する職員に感謝です。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月/回開催し 活動報告、予定を報告している。メンバーの方々に意見 要望を頂いている。今年度は報告のみにとどまらず避難訓練や小行事「バーベキュー」に参加してもらい入居者との接触 様子も見てもらっている。	○	メンバーの方々より色々なホームでの様子を見たいという意見を頂きました。今年度は体験と活動報告写真 ビデオを使い より活動内容を理解してもらっている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは、直接窓口に行き運営推進会議の依頼状や 会議報告を持参している。いつでも連携が図れる様信頼関係を作っている。又、月/1回の介護相談の受入もしている。	○	今後も継続して行きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在当ホームにて権利擁護等制度を利用されている入居者はいないが 実践者研修受講にて知識は得られていると思われる。	○	日々多忙な業務に追われてはいるがテキスト等を中心に再度確認してもらえればと思う。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県より配布された高齢者虐待防止法を回覧板にて伝達し 職員一同再認識している。又細心の注意を払い防止に努めている。	○	「虐待」絶対にしてはいけない事と全職員が周知している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時にはキーパーソンとなられる家族の方に時間をとってもらい契約書 重要事項説明書 自己評価 外部評価 個人情報情報を説明後納得されたうえで契約書に印鑑を押してもらっている。また、退居に関しても入居者の現状を話し御家族の理解された中で次の入居者を探させてもらっている。</p>	<p>○</p> <p>今後も御家族の気持ちを良く理解し継続していきたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>三ヶ月毎のケアプラン説明時に、御家族へ苦情 クレーム 相談との順で何か必ずコメントをもらうようにしている。又直接クレームなどがあれば管理者へ言ってもらいすみやかに対応し再度報告させてもらっている。</p>	<p>○</p> <p>現在大きな苦情もなく家族方々との信頼関係も深まりつつある。どんなささいな事でも気軽に声かけてもらうような雰囲気、人間関係を築きあげたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>三ヶ月毎のケアプラン説明にて入居者の様子 暮らしぶりを書面にて報告健康状態もケアプランにて報告はするが緊急な健康状態の変化、受診時にはその都度報告している 金銭管理はホーム金庫に頂いている。1ヶ月/回程度家族面会時個人出納帳の確認、サインをもらっている。別ファイルに領収書を貼っている。</p>	<p>○</p> <p>今後も継続して行きたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関入り口に苦情相談組織図を掲示している。入居契約時に御家族に説明後書面をお渡ししている。管理者相談窓口として携帯、自宅の番号の記載している。</p>	<p>○</p> <p>家族面会時にも職員一同気軽に声かけてもらい相談しやすい雰囲気作りに努めていえる。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者も常に介護従事者として勤務し入居者の状況を把握しながら職員に相談したり、個人的に意見を提案してもらう事もあり反映させている。</p>	<p>○</p> <p>今後も職員の意見を聞き入れ入居者の方々が楽しく充実した生活が送れるよう支援して行きたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の状況におうじて勤務体制を整えている。緊急性の場合には職員自ら出勤してくれ安定したホーム作りにちからを貸してもらっている。</p>	<p>○</p> <p>入居者の状況や要望により柔軟に対応出来る様調節していきたい。緊急時職員自ら状況判断し公休変更してくれる心から有り難い職員ばかりです。いつも入居者が穏やかな生活が送れている。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>当ホームは1ユニットの為異動はない。離職する職員もほとんどおられないがやむを得ず離職される時は最終勤務日に入居者に説明後、入居者 職員全員でお見送り、お別れをしている。</p>	<p>○</p> <p>当ホームの職員はとても明るく笑顔で仕事面でも心から介護してくれる職員ばかりです。とても感謝しています。今後も職員とともに質の向上に努めていきます。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修終了後は研修レポートを提出してもらっている。又全体会議でも報告してもらっている。常勤、非常勤問わず研修内容に応じては受講すすめている。</p>	<p>○</p> <p>研修にはなるべく沢山の職員に受講してもらおうと思っている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>二ヶ月/回に大村市グループホーム連絡協議会開催にて情報交換事例発表あり。又、相互評価部もあり市内グループホームを訪問し活動の取り組み等聞かせてもらっている。</p>	<p>○</p> <p>大村市グループホーム連絡協議会研修部により職員の相互研修も行われている。他ホームを研修する事により勉強 質の向上を期待する。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>勤務状況によりどうしても日勤が続く職員には声かけ、体調の様子を伺っている。又、表情が冴えない職員がいた時には本人とゆっくりと話す時間を作るよう配慮している。</p>	<p>○</p> <p>公休は連休をいれてリフレッシュしてもらったりしている。又職員同士にて外食したりして楽しくおしゃべりしてストレス解消に努めている。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>管理者も日々介護従事者として勤務しており業務の多忙の悩みを把握しているつもりである、感謝の言葉かけを常にかけるように努めている。</p>	<p>○</p> <p>今後も職員がストレスをためないよう目配り、気配りをしゆとりのある介護に努めていきたい。それが「心」からの介護に繋がると思われる。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前家族本人より生活歴等を聞く中で本人の不安 悩み 苦しみを聞き出しておき職員にも把握してもらい入居後も上記項目を念頭に置き声かけしながら信頼関係を築き自分の居場所を見つけてもらっている。</p>	<p>○</p> <p>今後も継続していきたい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談一申し込み一面談一契約の流れの段階で御家族の思いを良く聞き入れておく</p>	<p>○</p> <p>入居後ほとんどの家族の方々が定期的に頻回に面会に来てくださる。とても有り難いです。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス 利用も含めた対応に努めている	相談に来られる方々の今の一番の問題点悩みを聞かせてもらい状況 に応じて地域補活センターとの連携を図っている。又、緊急性があると 判断した場合はホームページにて他事業所の空室確認し直接他事業 所との連携を図っている。	○	来節される家族は色々な悩み心境で来られます。 その方々の心を受け止め今後も助言出来る事があ れば助言させていただきます。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している	事前の入居相談で把握した情報を基に職員伝員に把握してもらい入 居前に本人様に見学してもらったり職員が自宅や病院に出向き顔を合 わせて入居という形をとっている。又、家族の方より本人の楽しみ 触 れてはいけない事を聞き出し職員一同念頭に入れて置く。	○	入居後しばらくは混乱期にあるが環境の変化により 一番混乱されているのは本人様なので入居時程頻 回の面会を進めている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本 人から学んだり、支えあう関係を築いている	「ふあみりい」という看板どおり職員、入居者喜怒哀楽を共にしている。 私達職員は今まで沢山の入居者に数えきれない程の「学び」をさせて 頂いている。今後も個別に1対1のゆっくりと話せる時間を大切にして行 きたい。	○	入居者は人生の大先輩です。開設7年目となりました が縁あって一緒に生活させて頂いた入居者の 方々 教えられる事が沢山です。私が有り難うござい ます。の気持ちでいっぱいです。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えて いく関係を築いている	ケアプラン説明時、家族面会時入居者のそのままの言葉で「喜怒哀 楽」を伝えてもらっている。	○	介護記録もそのままの言葉で記載しておりケアプラ ンにもつなげている。家族の方々もより良く理解して くださっている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている	面会時、時には一緒に写真に映ってもらいその写真をホーム便りに載 せたりしている。年/回の一泊の温泉旅行へのお誘いをしたり夏祭りにも 積極的に参加してもらっている。	○	家族様との連携を図りながら今後もより良い支援を 続けていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	主治医は基本的には入居前にかかっていたドクターを引き続き主治 医としてもらい定期的な受診をしている。思い出の場所等がわかれば その場所を旅行先に決定したりしている。	○	今年度の旅行も1名の入居者が若い頃 嬉野で長 年勤務されていた事「いきたかあ」と本人の思いもあり 10月末に無事に嬉野温泉旅行が出来ました。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合え るよう努めている	入居者同士の関係が上手くいくような席を配置したり入居者同士の雑 談中もさりげなく聞き上手く伝わらない時には職員が橋渡しをしてい る。	○	入居者それぞれに犬の餌やりや洗濯物たたみ等無 理のない範囲で活動してもらっている。今後も継続 していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院されてる病院や施設に不定期ではあるが面会に行かせてもらっている。面会時の状況等職員がそれぞれに聞かせてもらっている。	○	今後も当ホームを退所されても縁が切れる事がないように継続していきたい。
が内容				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で声かけ把握に努めており日々の介護記録の中で入居者の言動や行動の再確認しケアプランにいかしている。	○	今後の継続していきたい
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談時その人の生活歴を聞き出し個性をいかした役割分担やその人の自信につなげている。ケアプラン説明時や面会時聞き漏らした情報を伝えてもらっている。	○	今後も御家族との信頼関係を深め沢山の情報を伝えて活きたい
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活の中で出来そうな事はこちら側より声かけし生活リズムを把握するように努めている。	○	入居者一人ひとりの生活リズムを把握し入居者9名の「ちから」が発揮出来るよう今後も支援していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	自分らしく暮らせる様家族の要望を聞き入れ個別具体的か介護計画を作成している。	○	今後もその人らしい個別的な介護計画の作成、実践していきたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常の介護計画、評価、説明は3ヶ月に1回直接家族へ説明同意してもらっている。入退院後の介護計画が生じた場合は早急にプランを立て直している。	○	今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には入居者のsどのままの言葉表情等も入れて記入している。職員の気づきや声かけも記録している。又介護記録を基に介護計画を見直し評価につなげている	○	漠然とした介護計画ではなく個々の入居者の言葉職員の声かけそのまま記録に残している今後もより良く状況がわかる内容で記載していきたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の家族と話し合いのもと定期的な面会や外出、年末年始の自宅外出外泊も積極的に家族に働きかけている	○	個々の家庭状況を把握しながら自宅との繋がりを続けていきたい
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員さんにも運営推進会議のメンバーとしてホームを理解してもらおうと共に入居者が地域住民として安心して生活出来る様努めている。ボランティアの受入も積極的に受け入れている。	○	今後も継続していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現状では他のサービス利用までは至ってないが必要に応じて他のケアマネージャやサービス事業者と話し合い助言がもらえるように連携を図っていききたい	○	必要に応じて適切なアドバイスをもらい協働していきたい
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターとは入居相談の関わりをもっている今後も必要に応じては協力を得て相談していきたい	○	必要に応じた連携をはかり適切なアドバイスをもらい協働していきたい
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者9名それぞれにかかりつけ医との連携も出来ている又緊急入院時にもその都度状況報告させてもらっている今後も個々に合わせた医療を受けられる様に支援していく。	○	今後もかかりつけ医との連携を図り継続していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	当ホームの協力医療機関として精神科と契約しており必要に応じて外来看護師 医師 生活相談員に状報告相談している。日々個々に合わせた適切な医療が受けられる様努力している。	○	定期的な外来受診時日々の夫活状況を報告し病院側との連携を深めたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者、計画作成担当者「看護職」の資格を有している。日々の健康管理 状況変化には緊急対応出来る様努めている。	○	今後も件も健康状態を把握し早期発見早期治療に努めて行きたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院によるダメージを最小限に防ぐ為医師 御家族と話し合う機会を多くもち最小限の入院にて退院。その後は住み慣れたホーム環境のもとに外来通院につなげている。	○	今後も継続して行きたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度傾向にある入居者の定期受診には家族様にも同行してもらい直接医師からの病状説明を受けてもらいホーム側家族との今後の件にといても話し合いをかさね御本人ぬ「命」を大切にさせてもらい重度化医療行為が必要と思われる場合は長期療養の病院へ入院してもらっている。	○	今後も御家族様の連携を図りながらホーム側が限界となった時には医療機関への入院を勧めていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	御家族、御本人の意向も踏まえ主治医 職員と連携を取りながら入居者が安心して終末期を迎えられるような連携を図っている。又 急変時には近隣にある長崎医療センターにて対応してもらっている。	○	ホームの方針として看取りはしないという事もあり重度化した時家族様が不安にならない様適切な連携を図って行きます。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所へ移られる時は退去時サマリーを作成お渡しすると共に口頭でも他事業所への引き継ぎをする。又 御家族の了解を得て面会へ行かせてもらっている。	○	どうしても不定期な面会にはなるが時間を見て面会へ行かせてもらっている。縁が切れないように努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	今後も徹底して継続していきたい
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	○	入居者9名それぞれにあった自己決定が出来る様支援していく
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	○	日々毎日を明るく元気に楽しく充実したゆっくりとした生活を送ってもらいたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	○	今後も女は女らしく、男は男らしく身だしなみ おしゃれにはさりげなく配慮して行きたい。
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	出来る事はなるべく声かけし自分らしく家族の一員として生活を支援していきたい
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	今後も継続して本人の嗜好品の支援をしていく

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日勤、夜間業務日誌にも個々の排尿排便チェックをつけており排尿パターンをつかみ時間おきにトイレ誘導し不快感なく気持ち良く排泄支援が出来るような支援に努めなるべくオムツの使用を減らせるような支援を心がけている。	○	今後も継続して行きたい
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日/回の入浴とホーム側にて決めさせてもらっているが入浴希望者がおられる時には入浴してもらっている。拒否される入居者に対しては無理な声かけはせずタイミングを見計らったりしている。又 入居まもなく入浴に対して不安のある入居者がおられる時には職員と一緒に入浴し安心感を与えると共に信頼関係を深め気持ち良く入浴出来るような支援をおこなっている。	○	入浴は入居者対職員一对一の楽しい時間帯でもありゆっくりと楽しんで入浴してもらうように心がけている。今後も続けていきたい
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間不眠の入居者には何が原因かを理解し水分補給、捕食を摂ってもらっている。ゆっくりと話をして気持ち良く睡眠が出来る様に支援している。一人ひとりの疲労感の把握は出来ており入浴後午睡にて休息を取ってもらっている。	○	常に状況状態に応じた安眠休息の支援を今後も継続していきたい
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し得意分野ではその人のちからを発揮してもらい感謝の声かけを常に行っている。	○	それぞれの入居者が無理のない役割自分なりの得意分野で今後も力量を発揮してもらおう
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的小遣いはホーム側金庫にて管理しているが御家族の同意があれば小金は御本人が持たれている。買い物時自分で支払ってもらおう	○	今後も継続して行きたい
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節のお花見にはバスを利用して市外へ行き季節感を感じてもらっている。その時にはお花見として外食を楽しんでもらっている。又、日々ドライブ散歩等気軽に皆様玄関より出られている。	○	今年度の4月のお花見見学は1日で桜の花 菜の花と2種類のお花見を楽しんでんでもらいました。また来年も楽しいお花見を計画したいと思います。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別に美容室への外出等は家族の方々へ協力してもらおう事もある。先日の嬉野温泉は入居者が若い頃嬉野にて長年勤務されていた事もあり家族協力参加のもと無事に嬉野温泉に1泊旅行が出来ました。	○	今後も入居者の行きたい所へは可能な限り御家族に協力を得ながら実現して行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の入居者より電話要求があった場合はお繋ぎして電話内容が上手く繋がらない様な時には職員が橋渡しをする。又、先日の旅行でも参加して下さった5組の家族の方へ入居者より直筆のコメント 名前を書いたプレゼントを贈らせて頂きました	○	今後も継続して行きたい
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時にはお茶等を出し各居室にてゆっくりとくつろいでもらっている。面会時間の設定もなく夜仕事が終わられれば毎晩面会に来て下さるお孫さんもおられる。面会后帰られる際には入居者、職員でお見送りをしている。	○	面会時には楽しい雰囲気の中で居心地良く過ごせるよう配慮していきたい
を出し				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアに取り組んでいるが認知症の為夜間のベッドからの転落が予想される入居者に関しては家族に転落の重大事を説明納得 同意された後主治医に身体拘束の必要性を書面にて書いてもらいベッド柵の利用をする事がある。	○	今後も身体拘束最小限に留めたケアに取り組んでいきたい
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵をかけず自由な暮らしを支援している。時に玄関より出られる入居者もおられるが犬の餌やり等目的もありさげなく同行している。	○	日中 玄関に鍵をかける事は絶対がない。居室に関しても夜間のみ防犯面の考慮し玄関施錠している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は連携を図りながら入居者が今何処にいるか把握している。職員が個別に散歩 外食に誘う時には必ず他職員に声かけて外出している。	○	今後も継続していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬、包丁類はホーム側管理としているが個々の入居者に合わせた必要な物品は各居室に持たれている。時に危険物として心理状況による場合は予測して管理させてもらう事もある。	○	日々 入居者の心理状況を把握し状況に応じた安全管理に努め安全に過ごせる様な支援を続けて行きたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時対応マニュアルを作成しており、転倒、意識レベルの有無など事故報告書も作成しその都度御家族にも報告している。	○	今後も事故防止に最小限に努めじ事故発生時にも敏速に対応して行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	夜間等の急変時には「まず 慌てない」と言うことを常々職員さんには伝えており管理者に連絡 指示うけた後は自分なりに出来る対応をするように指導している。また119通報は消防訓練も兼ねよしい職員全員徹底している。	○	今後も急変時には 慌てず 焦らず 自分に自信を持った対応をしてもらいたいと思う。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間、昼間を想定した避難訓練年/2回実施消防所にも立ち入ってもらい運営推進会議で実践したりしている。夜間昼間の誘導方法に多少の違いはあるが人命優先して行きたい。又地域の方々もいつも協力して頂けるような体制を取っている	○	火災に限らず地震、水害時の訓練も徐じよに取り組んでいきたい
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ケアプラン説明時御家族にも予想されるリスクはお伝えしている。職員側も日々状況を把握しておりその人らしく自由な暮らしの継続支援に努めている。	○	今後も継続していきたい
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々職員は入居者の健康状態を把握しており体調の変化や異変に気付いた時には管理者へ報告、必要に応じては病院を受診している。その都度家族へも報告している。	○	体調管理に努め今後も早期発見 敏速な対応に努めていきたい
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の介護記録に服用している薬の作用、副作用 服用回数を記載した一覧表を綴じて職員が周知している。	○	確実な服薬確認に努めると共に内服に関しての作用、副作用を周知していく
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表や個々の生活習慣や身体状況等から入居者に応じた対応をしている。「緩下剤使用、水分補給、腹部マッサージ等」	○	今後も継続して行きたい
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い個々により見守り、介助支援を行っている。就寝時のみ義歯洗浄後個別の容器にて消毒している	○	今後も清潔保持衛生管理に努めていく

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食日誌の項目に献立、材料も記載している又 同ページに食事量記入し摂取状況を把握するよう努めてる	○	今後も継続していきたい
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザに関しては毎年11月に御家族の同意の下個々のかかりつけ医に接種している。ノロウイルス等の感染症にては疑わしければまず受診早期対応、マニュアルを基に対応予定	○	これからインフルエンザ流行予想される。適度の運動 栄養管理健康管理に努め最小限におさええる
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板布巾等の漂白、消毒面は不定期ではあるが衛生管理に努めている。入居者の食器類は毎食後乾燥機にて高温消毒している。	○	食中毒予防に今後も積極的に努め情報収集、徹底していきたい
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームの庭にはレンガ調のガーデニングを設け季節の花々を植え季節感を味わってもらっている。ホームの入り口には立派な犬小屋に入っている愛犬「ポコ」がおり朝夕、散歩やウォーキングをしている地域の方々が気軽に声かけてくださる。	○	自由に玄関の外にてもらい愛犬ポコに餌をやったりガーデニングにて季節の花々を楽しんでもらいたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の花瓶には季節の花を飾っている。毎日居心地の良い生活が送れるように食器洗いの音や調理時の台所での不快な音を出さないよう配慮している。	○	今後も入居者の生活感や季節の花を取り入れ日々安定した生活した生活が送れるように支援していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファ、椅子を置いている。いつの間にかさりげなく廊下ソファにて雑談される事が多く 憩いの場所となっている。	○	今後も継続していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居見学時により居室の使い方は御本人が使っていた家具、配置にして調節してもらうように説明している。飾り品、写真等もはぐくみの物を持ち込んでもらい居心地良く生活出来るような支援を行っている。	○	その人らしい個性のある居室作りに努めている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室には空気清浄機を設置している。常に換気をこまめに行い空気の循環に努めている。居室の冷暖房も頻回に巡回に適温に調節している。	○	今後も継続していきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食器棚をカウンター式にしておりカウンターを利用して入居者に食事の盛りつけや下こしらえ「野菜切り」を手伝ってもらっている。皿類も用途に応じ自由に出し入れしてもらっている。	○	今後も声かけしながら入居者と一緒に料理、盛りつけを楽しんでいきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	日々、御本人の能力を活かした中で声かけをしながら自分に出来る能力を発揮してもらいたい	○	今後も継続していきたい
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外庭にはレンガ調のガーデニングもあり四季折々の花を植え季節感を楽しんでもらっている。リビング先のウッドデッキにも出入り自由であり短時間、外気浴を楽しんでもらっている。	○	入居者が外庭やウッドデッキを日常的に活用し日々楽しみながら活動してもらいたい

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「宝物、とっても大切に自慢したいもの。ここのみんなが宝物」当ホームの第2の理念です。全職員がいつも元気に明るく笑顔です。職員のパワーで入居者の方々もとても明るく笑顔で過ごせる事にとっても感謝しています。